



# デデポッポ

Vol. 12

京都市動物園

野生鳥獣救護センター通信

平成 22 年 4 月 21 日発行

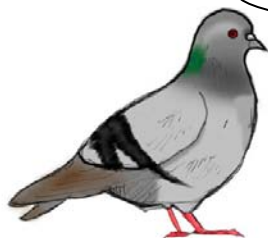
## ハトに餌を<sup>えさ</sup>与<sup>あた</sup>えないで！

4 月になり、すっかり春らしくなりましたね。

暖かい季節になると、屋外へ出かける機会も増えるのではないかと思います。

外に出ると、公園や街中などでハトをよく見かけませんか。今回は、ハトについてのお話です。

身近なハトって？

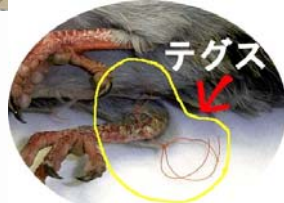


私たちの身近でよく見かけるこのハトは、「ドバト」といいます。もともとヨーロッパや北アフリカで、野生の鳥だった「カワラバト」というハトを、レース用や食肉用として飼い慣らしました。それが逃げ出したりして、再び野生で数を増やしたのがドバトです。  
(ドバトは、国が帰化動物として認定し、野生種として扱っています。)

ドバトは、救護センターに持ち込まれる数をもっとも多い鳥です (573 件中 115 件)。

救護センターに運び込まれる原因で一番多いのは、ネコやカラスに襲われるケースですが、人間の近くにいることで、起こってしまう事故も多くみられます。

※2009年度救護実績



### 人が関与し被害を受けたケース

- ・交通事故
- ・窓ガラスへの衝突
- ・巣の撤去
- ・ネズミ捕りなど
- ・粘着シートにひっかかる
- ・テグスやネットに絡まるなど

みなさん、足元にきたドバトにパンの耳やお菓子などをあげたこと、一度はありませんか？ 次々に集まってきて餌を食べる様子は見ていておもしろいかもしれませんが、餌をあげるのはちょっと待ってください！

十分な餌があると、ドバトは季節に関係なく卵を産みヒナを育てます。その結果、ドバトが増えすぎてしまい、農作物を食べたりフンや鳴き声などで苦情が出たりで、人とうまく一緒に生きていくことができなくなっています。

また、人が餌を与えると、人から餌をもらうことを覚えてしまいます。人に慣れてしまうと、平気で近寄っていくため、人為的な被害を受けることが多くなります。

餌をあげる前に、ハトが野生で生きている動物であることを思い出して下さい。人為的な被害を減らすためにも、まずは餌を与えないようにすることから始めていきませんか？

